

大阪府原子炉問題審議会
平成21年7月21日
京都大学原子炉実験所

京都大学研究用原子炉（KUR）の運転再開等について

前回の本審議会において、KUR (Kyoto University Research Reactor) の今後についてご説明いたしましたが、その後の状況は次のとおりです。

1. 低濃縮ウラン燃料30体は既に完成しており、5月末頃までに原子炉実験所に搬入される予定となっていました。諸般の事情により延期となり、搬入時期は未定となっています。そのため、KURは、引き続き施設定期検査期間中の扱いとなります。

2. 平成18年9月、「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」（以下「耐震指針」という。）が改訂されたことに伴い、平成18年12月、文部科学省より、研究用原子炉についても、改訂された耐震指針に基づく耐震安全性評価の実施を求める文書が出されました。そこで、現在、KURにかかる施設の耐震安全性評価を行っています。評価は、平成19年の新潟県中越沖地震を踏まえ、敷地内の地盤調査（ボーリング調査）や敷地周辺の地質・地質構造に関する文献調査の結果などに基づき、実施しました。その結果、震度6レベルの揺れ（地震動）においても最重要安全機能（止める・冷やす・閉じ込める）は維持できるとの中間報告書を取りまとめ、6月30日付けで文部科学省に提出いたしました。今後、原子炉の周辺設備等に関する評価を行い、最終報告を取りまとめる予定です。

なお、中間報告書は次の要点をもとにとりまとめています。

- ①敷地及び敷地周辺の地質・地質構造を文献調査や地盤調査などにより検討しました。
- ②検討用地震として内陸地殻内地震、プレート間地震、海洋プレート内地震を選定しました。
- ③検討用地震の中で敷地に最も影響を与える地震を選定し、地盤調査によって設定した解放基盤表面（地下18.1mにおける基盤岩（花崗岩））において基準地震動 S_s を策定しました。
- ④解放基盤表面で策定された基準地震動 S_s をもとに、洪積地盤での地震波伝播特性を考慮し、建屋基礎盤位置での入力地震動を評価しました。
- ⑤入力地震動に基づき、原子炉建屋や安全上重要な機能を有する主要な設備等の耐震解析を行い、耐震安全性が確保されていることを確認しました。